

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成27年1月8日 (2015.1.8)

【公開番号】特開2013-231249(P2013-231249A)

【公開日】平成25年11月14日 (2013.11.14)

【年通号数】公開・登録公報2013-062

【出願番号】特願2012-103908(P2012-103908)

【国際特許分類】

D 0 4 H 1/559 (2012.01)

D 0 4 H 1/4374 (2012.01)

B 3 2 B 5/26 (2006.01)

D 0 4 H 1/70 (2012.01)

【 F I 】

D 0 4 H 1/559

D 0 4 H 1/4374

B 3 2 B 5/26

D 0 4 H 1/70

【手続補正書】

【提出日】平成26年11月18日 (2014.11.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 4 】

【特許文献 1】特開 2 0 0 8 - 1 4 8 8 3 4 号公報 ( J P 2 0 0 8 - 1 4 8 8 3 4 A )

【特許文献 2】特表 2 0 0 8 - 5 2 6 5 5 2 号公報 ( J P 2 0 0 8 - 5 2 6 5 5 2 A )

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 1 】

図 5 を参照すれば、接合部 1 3 は、横方向 X へ延びる仮想線 1 9 に沿って、離間して複数形成されるとともに、仮想線 1 9 は縦方向 Y へ離間して複数設けられる。隣接する仮想線 1 9 において、それぞれの接合部 1 3 は縦方向 Y において重ならないように、いわゆる千鳥模様を描くように配置される。このように配置されることによって、弾性シート 1 1 では、仮想線 1 9 に沿って横方向 X へ延びる畝状の第 1 凸条部 1 5 が形成される。非弾性シート 1 2 では、仮想線 1 9 に交差する皺が形成され、この皺が縦方向 Y へ延びる第 2 凸条部 1 7 とされる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 4 】

複合シート 1 の横方向 X における伸長倍率は、約 1 . 0 ~ 4 . 0 倍、好ましくは 1 . 2 ~ 3 . 2 倍である。伸長倍率は、測定対象サンプルの伸長状態での横方向 X における寸法

を、自然状態での横方向 X における寸法で除することにより算出する。伸長状態とは、複合シート 1 の非弾性シート 12 の皺が延びて第 2 凸条部 17 と第 2 凹条部 16 とがほぼ平に状態にまで伸ばした状態をいい、自然状態とは、伸長状態を解除し、20、60%RH 雰囲気下に 60 分以上放置した後の状態をいう。